



## 畑の開墾に挑戦



先生お野菜の苗を植えたいね。それには畑が必要。ちょっとした開墾に挑戦した子どもたち。

園舎の目の前に広がっている畑。そこは、柿の実学園共有のじゃがいも畑。

その片隅にスペースが残っている。でもそこは、農家の方々も困っているという球根付きの草がびっしりと生えている。その場所は、いつでも、すぐに観察、お世話ができる身近な場所。「はじめの一步のお友達の畑にしたいな」と柿の実学園の男の先生に声をかけてみると、「力を貸してあげよう！」・・・と。準備して下さった物が・・・

側にあった「脚立」と「まるたの棒」と苗木等を入れている網目になっている「籠」それに、スコップ。  
さあ、何が始まるのでしょうか？

脚立を寝かせた状態で置き、その上に棒を置き、その上に籠を乗せました。さあ！土造りの始まりです。スコップで土を掘ります。籠の中に入れます。籠をゆらゆらと揺すります。細かなサラサラの土が出てきます。残った物は、あの球根付きの草と石。身近な物が便利な道具に早変わり。その様子をみのり組の先生に伝えました。この体験を子どもたちにも経験させよう！



硬くなってしまっている土です。

そこで考えた担任は、クワで土を削りとって行こう。

本物のクワだと危険も伴うので、セメントをこねるクワを用意しました。クワを使いこなす子どもたち。二人ペアーになり、土をふるいにかけて。ふかふかの土のまるでベットのよう畑が一角できました。そこには、みのり組が、メロンと枝豆の苗を植えました。

令和の時代に入った5月。「食育食農を楽しもう！」とみつば組・よつば組もいろいろな野菜を植えました。



開墾した畑に、きゅうり・なす・ピーマン・トマト・スイカ・メロン・モロヘイヤ・カボチャ・枝豆。どのように育っていくのか楽しみです。しかし、周囲の畑は栄養が詰まっている土壌。開墾したての畑は、まだ栄養が足りていない土壌です。育ちは望まれません、保育士と子どもたちとが試行錯誤で楽しむ・お世話する畑です。



きっと子どもたちにとっても職員にとっても、

大きな学びのある食育食農になることでしょう。

事務室の愛先生、真理子先生、西山先生、徳子先生、理恵先生、さよ子先生、そして園長で時間があるときに、少しずつ畑の土壌造りに挑戦しています。

早速、ふたば組さんが「風船かずら」の苗を植えてくれました。

午睡中、保育士の先生方も出て来て、クワやスコップで、共に汗を流しました。プランターにいろいろな花の種を植えてくれているみつば組のお友達。そして、畑に植えられているトマトのお世話を引き継いでくれているみつば組さん。子どもたちが楽しそうに踊っている「パプリカ」つついパプリカの苗を買ってしまいました。植えたのは美智子先生のクラス。



お世話しながら、色々なことを発見し、学びをいろいろしているようです。はじめの一步のお友達と先生が一体となつての取り組みが始まっています。



～温かい、眼差しの応援をお願い致します～





## ちょっと変わった草むしり

・・・ちょっとした草むしり体験が、いろいろな思考に繋がりに・・・



はじめの一步保育園のお庭に敷いてある人工芝が、土で埋まりかけています。それに、草も生えはじめてしまいました。6月から、水遊びが始まります。これでは、せつかくの人工芝の用途が活かされません。草を取ろうとしますが、人工芝の隙間から目を出し、大きく成長した草を、引き抜くことができません。根と土がしっかりと合体されています。人工芝を持ち上げ、土をはたいてみました。するとどうでしょうか、草が「すり！」と抜けるのです。

これは、おもしろい！

相原先生に提案してみました。これは、良い経験・体験・発見になる。はじめの一步のお庭は、夏になると、乳児のお友達が、人工芝のお庭で、水遊びを楽しみます。みのり組のお友達で、乳児のお友達が気持ちよく水遊びができるように「環境造りをしてあげよう」ということになりました。みのり組の子たちから「僕たち軍手を持っているから大丈夫、やるよ。できるよ。」と嬉しい声。

そして、一生懸命な取り組みが始まりました。



人工芝の裏側には、べったりと土が付き重くなっています。二人一組になり、人工芝を地面からはがします。プルプルと人工芝を揺らすと土が取れます。土が少なくなったところで、草を抜きます。つるつと！と抜けるのです。よく抜けるのです。面白く抜けるのです。人工芝が重くて、二人では持ち上がらない物もあります。仲間を呼んで数人で持ち上げます。プルプルと揺らすだけでは駄目な物もあります。「何か物が必要だ！」砂場の道具を使ってみたり、足を使ってみたりと、工夫する子どもが出てきました。草は取れたとしても、まだ土がいっぱいついています。

フェンスに干して、土を乾かすことにしました。二人で持って運びます。一人で運ぶ方法を考えた子もいます。くるくると丸めれば、一人でも運べることを・・・。

次の日、土が乾燥され、布団たたきのように、人工芝をたたくと、土がどんどん落ちてきます。人工芝が軽くなり、人工芝から光が差し込むようになりました。週明け、今度は、地下水で、人工芝のゴシゴシお洗濯・・・。軍手が、タワシ替わりに・・・。人工芝も綺麗になるし、自分の汚れていた軍手がきれいになっている。

子どもたちが持っている「自分の軍手」ひとつが、いろいろな所で大活躍。その大活躍が、大きな学びへと・・・。





## ギターコンサート

みのり組のお友達のお父さんが、子どもたちの前でギターを弾きたい。  
一緒に楽しみたい。そんな、お話を頂きました。とっても、嬉しい提案です。



みのり組のお友達のお父さんから、「クラスの子どもたちにギター演奏を聞かせてあげたい」そんなお言葉を頂き、お話をするうちに「幼児の子どもたちとお父さんとのイベント案」に変わり、次に、お父さん一人ではなく、お仲間の方も二人来て下さることになり、パーカッションも増え、アンプも設置されてのコンサート案に変わり、次にお母さんも歌ってくださることになり、ミニミニコンサートではなく、これは、「本格的な楽しいコンサートになりそうである」と予想され、会場をクローバーホールに変更。そして、

教育グループの仲間をご招待。はじめの一步の全園児のお友達とくりの実保育園、つくしんぼ保育園の幼児のお友達。そして、はじめの一步のお隣の園舎にいる小さなお友達もやって来てくれ楽しいコンサートになりました。

マラカスを片手にリズムをとるノリノリの子どもたちです。パプリカの曲が始まりました。ママが歌います。会場はさらに盛り上がり、ママの音量に聞き入る子どもたち。さあ！今度は、一緒に踊りましょう！USAの曲が始まると、踊ります、踊ります。子どもたちの嬉しそうな笑顔と、自然に踊りたくなってしまふ雰囲気の間がマッチし盛り上がりを見せます。次に「ありがとうの花」の演奏と歌声に魅せられ、アンコールの曲へと続きました。アンコールはもちろん、パプリカ・・・。



幼児の子どもたちは、時々踊っているの、嬉しくて、嬉しくてたまりません。笑顔がはじけます。身体が黙っていません。そんな盛り上がりの雰囲気を感じた、つくしんぼ保育園やくりの実の保育園のお友達もつられて踊りはじめます。乳児の子どもたちもリズムをとっています。どこかの「ライブ会場」のようです。

演奏を終えた後は、幼児組の子どもたちが作ってくれた、折り紙で折った豪華なメダルと、柿の実学園の敷地内にあるお花を子どもたちが摘みに行き、花束にしたお花のプレゼント。

子どもたち先生たちから、「楽しかったね」「また聞きたいね」の声がいつまでも続いていました。きのしたはるきくんのパパとママ、ありがとうございました。

ちょっとした先生と保護者の方との会話やコミュニケーションがきっかけで、楽しい企画に繋がり、思い出がいっぱいになります。子どもたちにとって、思い出は、10年・20年・30年先に何かのヒントとなり活かされることでしょう。



乳幼児期の一番大事な時期だからこそ  
「三位一体」を大事にしたい。  
子どもたち、保護者の方、  
先生と手を組んで子育てを楽しみましょう。